



宗祖大師殿 唐門にある麒麟の彫刻



第124号

## 規則正しい習慣と日々の祈り

檀信徒の皆様 こんにちは

今、世界中に拡がっている新型コロナウイルス感染症の影響により、皆様が精神的にも物質的にも大きな心労と痛手を蒙っておられることに、心からお見舞い申し上げます。

さて、コロナウイルスは目に見えないものであるだけに私たちに大きな不安をあたえ、これについてのあふれるばかりの情報は、私たちの不安をさらにあおり、増幅させます。

したがって、私たちはこれに対して過剰に反応しがちになり、「これは戦争だ」と声高に言う人さえいます。

しかし、人類はこれと戦っても勝つことはできないので、昔から日本ではこれらの疫病に対応するには敵としてではなく、神として祀ってきました。「行疫流行神」として、どうか私たちに禍をもたらすことなく、退散してください、と祈ったのです。

医学が進歩してきた現代においては、ウイルスに対する研究が格段に進んでいるので、治療薬やワクチンなどがいずれはできるでしょう。しかし、基本的には、私たちはウイルスと共存するしかありません。

なぜなら、野生動物と共生しているウイルスは地球上に約百七十万いて、その半分は人に感染する可能性があるといわれています。そして、



天台真盛宗管長

武田 圓寵

それがいつどのような形で人間の生活圏に出て来て我々の生活を脅かすか予想がつかないといわれています。ですから、これらを撲滅することは不可能なことです。

また、私たちが生きていくということは、自分以外のものにすべて依存しているということであり、自分以外のすべてのものとながっているということです。したがって自分に都合の良いものだけ受け入れ、都合の悪いものは排除することなどできないからです。

宗祖真盛上人は、回虫による病を持っておられました。そして選化されるとき、「ああ、ありがたや。この回虫にて往生できるとはうれしいなあ」とおっしゃったのです。自分の身体を悩ませ続けてきた回虫にでも怒りの心を起こさず、かえって、自らの往生を助けてくれたのだ、論されています。

ですから、共存するということは、どんなに悪いものでも一旦はそれを受け入れるということであり、それから正しい対応をするということなのです。

そしてその正しい対応とは、医学的科学的な対応を基本として、自らの持っている免疫力を高めるために規則正しい習慣を守ることと、仏が私たちに与えてくださる施無畏を信じて、すべてのものの幸せを日々祈ることでしょう。





# 三密は避けるもの 三密加持は大切なもの

福井教区 別格本山 引接寺 山主 市川 隆成

まずもって今下の一大事、日本はもとより世界中がパンデミック爆発的感染におののく新型コロナウイルス感染症にて不幸にもお亡くなりなられた方々にお悔み申し上げ、又感染された方々、その御家族関係者にお見舞い申し上げます。

私儀、昨年三月宗祖真盛上人が善光寺参拝の帰途、「越の国」教化の中心念仏道場として開基なされました、旧武生越前市京町 別格本山攝取山引接寺第四十五世の法燈をまことに有難い御縁に導かれ、継承させていただきまし

た。越前は古来より「仏教王国」と言われ、引接寺も信仰心厚き人々により護持されて参りました。昨年六月十五日、創立百年以上の歴史ある丈生幼稚園の可愛らしい園児を始め福井教区僧侶総代方にお迎えいただきました。古式にのっとり先ず国分寺、越の国総社大神宮報告参拝、寺町通りをお練り、開門行事や本尊阿弥陀如来御宝前において晋山報告法要が魔事無く挙行できたのは、今から思えば、誠に有難きことであったと感無量でございます。

さて、人類の歴史は、いわゆる「疫

病」感染症との戦いの歴史とも言われます。遠くは平安時代京の祇園祭の起源や、引接寺で毎朝お勤めしております、真盛上人御縁の善光寺一光三尊仏の由来を訪ねると、その時代の人々が、疫病をおそれ、祈り、乗り越えて来た足跡が解ります。近くは「コロリ」コレラ「ベスト」「スペイン風邪」、最近では新型コロナウイルス「サーズ」「マーズ」。地球上の多くの人々が感染して亡くなられました。

この間、新型コロナウイルス対策の「要」として「密閉、密集、密接」の三密を避けましょうとさかんに言われます。一方仏教用語で「三密」は、密教(天台・真言)修業の「基」となる言葉です。葬儀をはじめ、お盆、彼岸等で営む光明供施餓鬼法則啓白文の中にも

『光明真言の秘法を修することあり』

三密加持の春の花は

即事而真の林に開き

とあります。密教で行われるすべての儀礼の基本にこの「三密加持」があり、天台の教えに連なる我々が必ず修める必要があるのが、「三密加持」の行で



あります。三密加持の意味。まず「身密」本尊を現す「印」を手で結ぶこと。「口密」本尊の真言を口で唱えること。「意密」ご本尊の姿を心「意」に思い描くこと。この三密が完璧にできるこ

と、仏と自分が一体化することを「加持」と言います。天台の大切な教えに「山川草木悉有仏性」があります。生きとし生けるもの、更に山や川までも仏性。仏になれる種を宿している。自分自身と仏が一体となり、その種が花開くように、三密を守り、日々精進していくのが、私達の正にめざす道であります。

「身密」

手を洗い、身を清め、日々の行動を見直し、自分勝手な行動をしない。

「口密」

うがいをしっかりと行い口を

清め、自分の言動を見直す。  
「意密」 自分の心を見つめ直し、様々な情報に惑わされない。

自分の心と向きあいながら、真心を込めた行動や発言を心がけたい。そして自分が感染しているかもしれないと恐れ、大切な周りの人々に感染させない心がけること。二次三次の感染の増加は必ず来ると心し、全ての自衛要件が解除となりましたが、専用の治療薬やワクチンが無い状況を見れば、まだまだ「気の緩み」は禁物です。「コロナ以前」の当り前が、現在の当り前ではないと自覚し、生き、生かされているという生命の大切さを自覚しましょう。

真盛上人が示された「人としてしてはいけないことは一切しない。何のわだかまりの無いお念仏を」の道を共に歩んでまいりましょう。

「祇園御霊会」

八六九年(貞観十一年)に疫病が流行した際、疫病消除や天下泰平を祈り、当時の国数六十六本の鉾を建て、八坂神社から神泉苑へ輿を渡御したのが今の山鉾巡行祇園祭の起源とされる。

「善光寺一光三尊仏の逸話」

善光寺秘仏本尊の一光三尊仏には「インドの月蓋長者が、娘の疫病を治そうと、釈迦尊者に教えを乞い、教えに従い、西方に向かつて祈ると、阿弥陀仏が観音菩薩と勢至菩薩を従えて現れ、疫病から救った姿である」という逸話が残っている。

## 比叡山延暦寺大講堂において 宗祖真盛上人御尊像が修復される

仏教の母山である比叡山延暦寺の大講堂には、大日如来を御本尊として、その左右には比叡山で研鑽を積まれた各宗派の開祖の御木像が祀られ、外陣にはお釈迦様を始めとして仏教・天台宗ゆかりの高僧の肖像画が掲げられております。

我が宗の宗祖慈摂大師真盛上人も、他の宗派の祖師高僧と共に祀られております。

その尊像は、昭和三十年に大講堂が火災で灰燼に帰した後、大講堂再建について、延暦寺より本宗へ祖師の御木像謹刻の依頼があり、当山が大本坊落



修復された宗祖慈摂大師真盛上人御尊像



左より 一遍上人・宗祖真盛上人・親鸞上人・法然上人・良忍上人

慶大法会を勤めるといふ機に併せて奉安しようとい計画され、昭和三十五年四月に福井県武生の内藤雅雲師により、謹刻制作されたものであります。

しかしながら尊像の彩色が、経年の劣化により塗膜の剥離と剥落が進んで、今回現状の塗装を一度掻き落として新たに彩色を施す塗直しを行う修理作業となりました。

約七ヶ月にわたる修理事業の後、去る六月二日に延暦寺小堀光實前執行を御導師として延暦寺一山四名式衆により還座法要が厳修されました。この法要に際し、発願者であります伊勢教区



成願寺西山真澄師と有縁の方々、並びに西教寺内局と塔頭寺院住職一同が随喜されました。

法要後、小堀前執行が、「申すまでもなく世間では目

に見えない大変恐ろしい疫病が蔓延をしておる最中でございます。そんな中でも本日漸く天台真盛宗の御開祖であります慈摂大師真盛上人様の御尊像が、ここに御無事にお還りをいただき、ご還座のお勤めをさせていただけたことは誠に尊く有難いと思っております。

真盛上人様がお元氣な頃もおそらく目に見えぬ病に、人々の体が、或いは心が、苛まれたことであろうと思えます。しかし一心に戒を保ち、念佛を称え、

称名念佛を世の人々に等しくお弘めになられたことを思うとき、この比叡山に居ります者は、祖師方の御苦勞を思い、人々へその思いをしつかりと伝えていくことが役目であると改めて実感したところでございます。今日このすがすがしさの中で、ご還座のお勤めができたのも、我々にとって励みになり、これからも祖師方のお御心を拝し、共に手を携え、そして世界の人々の心の安寧を祈ってまいりたいと思つたところ

ろでございます。」とご挨拶されました。比叡山へ御登山の際は、輝きを取り戻した宗祖がお祀りしている大講堂へ是非ともご参拝ください。

## 禅明坊光秀館のご案内

今年の一月からスタートした大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公は、西教寺を菩提寺とする明智光秀公です。

明智光秀一族の墓や、妻熙子の墓がある西教寺をはじめ、光秀公が築城した坂本城、明智寺と呼ばれていた盛安寺、坂本城の城門が残る聖衆來迎寺など、光秀公ゆかりの場所が天津市坂本一帯に多くあることから、天津市を含む官民連携の協議会が中心となり、「びわ湖大津 光秀大博覧会」を開催されています。

大博覧会のメイン拠点のひとつが、



西教寺の境内にある「禅明坊光秀館」です。当初三月八日オープン予定で準備しておりましたが、コロナウィルス感染拡大の影響





水城や山城など、戦国の近江を紹介しています。びわ湖の真ん中に立てば、戦国時代、びわ湖の周り三六〇度が

響でオープン延期、四月一日に一度オープンしましたが、その後緊急事態宣言で一旦閉館、宣言が解除され六月五日からようやく再開でき、お客様をお迎えしております。

禅明坊光秀館では、大きく二つの展示を行っております。

一つ目のびわ湖大津「麒麟がくる」展では、西教寺に妻・熙子の墓があることにちなみ、光秀公と熙子の夫婦に関する展示を行っています。

入館してすぐ、明智光秀役の長谷川博己さんと、熙子役の木村文乃さんの等身大パネルに挟まれて記念撮影をした後は、長谷川さんが西教寺を訪れた際の映像やドラマのメイキング映像をご覧いただけます。

また、ドラマの中で光秀や熙子に着ている衣装、使用した小道具などが間近に展示されており、大河ドラマが、ぐっと近い存在になり、さらにドラマを楽しんでいただけることと思います。

二つ目の「近江の光秀ものがたり展」では、部屋全体を滋賀県に見立て、



禅明坊光秀館 入館料五〇〇円

城に囲まれていたことをイメージできます。

東国や北陸と京を結ぶ、びわ湖を擁する近江は、戦国時代にはたいへん重要な場所であり、「近江を制するものは、天下を制す」といわれたことを、実感いただけます。

また、びわ湖の部屋のあとには、明智光秀公のものと伝わる甲冑や、志賀の陣から比叡山焼き討ち、坂本城築城までの、坂本のダイナミックなドラマを映像で展示しております。

禅明坊光秀館の後は、西教寺境内をゆっくりと散策いただき、不断念仏の鉦の音に耳をすませながら、光秀公のお墓の前で手を合わせ、光秀公資料室で直筆の書状など貴重な資料をご覧いただけます。

禅明坊光秀館は、来年二月七日まで開館している予定です。この機会に是非西教寺に足を運ばれ、今話題の光秀公について、思いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。

ご来場お待ち申し上げております。

## 菊料理のご案内



### 菊料理の料金

「1膳 2,500円 (消費税・拝観料別)」

### ●要予約

「必ずご予約申し込みを！ 1日 限定150席」

お申し込み／西教寺寺務所 大津市坂本5-13-1

TEL.077-578-0013

西教寺菊料理膳  
(期間限定十一月十日より三十日まで!!)

西教寺菊料理膳の九品。なます(上段中央)は叡山しめじ、一夜漬け(下段中央)は草津のコマツナを合わせるなど湖国を中心に食材を吟味する。菊の花をつけ込んだ菊酒(中段右)は味がまろやかになり色もこはく色になる二三年ものが主で、重陽の節句にも飲まれる。

大津市坂本の特産の食用菊を使った料理。菊寿司、菊なます、菊酒など菊づくし。

坂本では、昔より「菊を食べないと秋を迎えた気にならない」といわれるほど、松茸や栗より身近な秋の味覚のひとつなのだそうです。ここ西教寺では、鮮やかな色目と香り・しゃつくりとした食感の坂本菊(食用)を味わうことができます。

食前酒からデザートまで、すべて菊料理のフルコースは、この時期、この地でしか味わえないもの、目で、舌で、秋の坂本を満喫できます！

## 団体参拝 ありがとうございます

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございました。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等の充実につとめてまいりますので、たくさんのお参拝をお待ちしております。

十一月 二十三日	伊勢教区笠松組浄泉寺様団体参拝 三十五名
十二月 一日	伊賀教区西部組西蓮寺様団体参拝 二十四名
六月	伊賀教区御詠歌交流連盟様団体参拝 九十一名
一月 九日	伊勢教区小俣上組成願寺様団体参拝 二十三名
二月 十九日	滋賀教区滋賀南組西接寺様団体参拝 十五名

発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三-一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七五七八) 〇一三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七五三三) 二二四一番